

幼児教育は小学校教育の「前倒し」ではありません

幼児教育における「遊びが学び」という考えはまだまだ一般的ではなく、子どもが困らないように、と学校で学ぶ内容を先取りしようとすることも少なくありません。

幼児期は、「遊び」の中で周囲のヒト・モノ・コトに自ら進んで関わりながら、豊かな体験を通して、様々な「学びの芽」を育てていく時期です。その「学びの芽」が小学校以降の学びの基礎となっていきます。

架け橋プログラムの取り組みを通した気づきをご紹介します

キーワード「それぞれの時期にふさわしい学びの重要性」

子どもの年齢によって教育内容や方法はさまざまですが、幼児教育と小学校教育のどちらか一方に合わせるのではなく、その時期に適切な教育を実施していくことが必要です。

幼児教育

幼児期の遊びには、幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれています。

与えられた課題をこなすのではなく、子ども一人ひとりの毎日の生活や、興味・関心や遊びを通して「もっと知りたい」「もっとやってみたい」と思える遊びや経験のなかで「学びの芽」が育まれ、小学校以降の学びの土台となります。



小学校以降の教育

幼児期までに育まれた学びの芽を活かし、学校教育へと繋いでいきます。教科の活動をとおして、体験を通した知識を関連付けて深く理解したり、気づきを言語化し他者と対話し考えを深めたりするなど学びを整理し、幼児期に育まれた学びの芽をさらに伸ばしていきます。



ご家庭でも「学びの芽」は育っています

買い物やお手伝いなどで数や形、色などの概念を身につけたり、絵本の読み聞かせで豊かな表現に触れたり登場人物の気持ちを自分と重ねたりするなど、ご家庭でも学びの芽が育まれています。子どもがすすんでやりたいと思うことに関心をもち、「もっと知りたい」「やってみたい」を支えることで「学びの芽」が育まれていきます。

読み聞かせで！

どこまで
潜ったん
だろうね～



ずーっと
地球の反対まで
行ったんちゃう？



思考力の芽生え、言葉による伝え合い
豊かな感性と表現 など

お手伝いで！

たまご何個入
れるの？全部
やりたい！



上手に割れたね。
じゃああと2個
お願いね



自立心、協同性、思考力の芽生え、社会
との関わり など